〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 4-2-2　　TEL/04-2964-2511　FAX/04-2964-2519
E メール/ shimin@ictv.ne.jp　　http://iruma-skc.seesaa.net/

協働ガイドラインについて　ワークショップを開催しました

昨年の 12 月 2 日（日）、産業文化センターをメイン会場として第 13 回生涯学習フェスティバルが開催され、たいへんなにぎわいでした。その中のまちづくり企画の一つとして「入間市協働ガイドライン策定のためのワークショップ」が協働ガイドライン策定会議の主催によって行われました。この策定会議では、市民と行政との協働によるまちづくりのためのガイドライン原案を現在策定中です。

ワークショップは、市民活動団体や市民、行政職員など 50 名以上の参加を得て、入間ではおなじみの庄嶋孝広さん（市民社会パートナーズ）をファシリテーターに迎えて行なわれました。

ワークショップでは、現状の課題を出し合いました。「入間市では協働事業への取り組みが遅れている」「協働を担う市民団体側もコスト意識を持つことが必要」「市役所内の担当課間に壁ができないようなルールづくりも重要」といったいろいろな意見が出されました。

多くの課題出しや意見を通じて、市民と行政が協働ガイドラインというルールを共有することは「元気な入間の実現」に有効だという認識を参加者間で持てたのではないでしょうか。

策定会議では、ワークショップでの意見も踏まえて今年度末にはガイドライン原案を策定予定とのことです。市民活動団体の皆さんにはこの動向にご注目ください。

図書館棟２階会議室で行なわれたＷＳ

協働って　な～に

Q. そもそも「協働」とはなんですか？

A.「協働」とは、市民と行政がまちづくりの課題解決に向かって、目的を共有し、お互いの立場や特性を活かして協力して取り組むことです。協働ガイドラインの目的は、「新しい公共」の担い手として、市民活動団体等と行政が協力することにより効率的・効果的に地域の課題を解決できるような環境づくりです。

Q. 協働するといいことがあるのですか？

A. まず市民活動団体等にとっては、行政が持つ情報や調査力を活用しながら、自らの掲げる活動団体としての使命をより効率的・効果的に実現できます。また、行政との協働による活動成果により、市民活動団体等に対する住民や行政の理解や評価が高まります。
一方、行政にとっては、市民が持つきめ細かな情報や調査力、特性などを生かした協働事業を実施することにより、より市民ニーズにあった公共サービスの提供が可能となり、事業の見直しや職員の意識改革が図られ、行政のスリム化やサービスの効率化などが進むことが期待されます。

※ 協働ガイドラインについては、http://irumaguideline.seesaa.net/をご参照下さい。

団体の底力アップ実践講座 を開催しました

市民団体を悩ましている「資金不足」、「参加者不足」、「会の沈滞化」といった問題について、団体の底力アップを目指した講座を開催しました。今期は「資金の集め方」と「参加者を集める為のチラシの作り方」について、第一線で活躍されている講師を招きました。

◆第1回 寄付「あしながおじさんの見つけ方」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9/29（金） 午後 1:30～4:30

活動資金の確保は、市民団体にとって大きな悩みの種です。寄付してくれる「あしながおじさん」は何処にいるのか、どのようにして見つけるのか、そのヒントを得るための講座でした。

講師：鵜尾雅隆氏

アメリカで、The Fundrasing School 修了しNPO マネジメント修士号取得。その後、国内にて「ファンドレイジング道場」を主宰し、NPO 等に資金調達法の支援や、講座を行う。

『ファンドレイジング』……聞き慣れない言葉ですが、実は市民活動にとって欠かすことのできない「資金集め」のことです。

資金集めは「何故苦労するのか」について、グループ毎にディスカッションすることから始まりました。寄付集めの難しさはどのグループも同様で、寄付要請の経験が無い、自分達の活動を上手く伝えていないといった意見が出ました。これに対し鵜尾さんからは、寄付者の気持ちになって考えることが必要であるとの説明があり、参加者は「目からウロコ」でした。

また、寄付経験者の寄付先は共同募金が最も多く、次いで赤十字、マスコミ関連、学校等となっていて、NPO については５％程度だとのこと。

この原因は、NPO の比較情報の少なさや日本の社会風土、歴史的背景によるもので、日本の寄付の特徴となっているそうです。

■ 寄付者の気持ち

- どこに寄附したらいいのか分からない
- 機会が無い。街頭募金や頼まれたときに気持ちで寄附する
- 周りにも寄附していることを言わない、気恥ずかしい
- 寄附はしたが、別に充実感、達成感がない
- ちゃんと使われるのか心配、使途が見えない
- 知り合いとかの縁でのつきあい程度で寄附

ところが近年は、大企業における社会貢献活動への積極的参加や遺産寄付者の増加等により、寄付をとりまく環境は NPO にとって良好な方向へ変化しているそうです。

「NPO の事務局長の立場で、今年 400 万円の寄付を来年は 600 万円集めなければならなくなった。さぁどうする？」というテーマで、テーブル毎にメンバーを入れ替えて対応策を検討しあいました。

なお、この問題に対する対応策のヒントとして、『路線廃止への憂き道をたどっていた銚子鉄道は、存続のための手段として「ぬれせんべい」をネット上で売り出すと共に鉄道存続に向けた PR を行い「寄付」を募った。その結果、現在も運行している。』との紹介があった。次いでファンドレイジング・サイクルの７つのステップの説明等がありました。

■ ファンドレイジング・サイクルの７つのステップ

①寄付の目的・ニーズの明確化
②理事・ボランティア・支援者の巻き込み
③既存・潜在的寄付者の分析
④ファンドレイジング方法の選択
⑤コミュニケーション内容・方法の決定
⑥ファンドレイジングの実施
⑦寄付者・支援者への感謝・報告

寄付を求める団体の実際のパンフレットや DM の例を見ながら、寄付者の視点で比較し、寄付したいと思わせる仕掛けやメーセッジの伝え方の工夫、改善点などを学びました。そして、ファンドレイジングのために具体的に取り組むべきことはどんなことか、グループ討議を行ううちに、あっという間の３時間でした。（参加者総数 20 名、於市民活動センター）

◆第2回　思わず手に取るチラシの作り方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 連続講座　12/15（土）・16（日）

ずばり、この講座の目的は、タイトルの「思わず手に取るチラシの作り方」です。今回、申し込みの方は、講座に参加すれば手に取ってもらえるチラシのノウハウが学べると思ったのではないでしょうか。講義と実習を２回に分け、連日でチラシ作りのツボを知る中身の濃い講座になりました。

講座やイベントに参加することが、参加者にとってどのようなメリットがあるのかを具体的にわかりやすく伝えること。これがチラシづくりの重要ポイントになると牟田さんは言います。

企画者側の意図や視点からのお仕着せの文言ではなく、参加者の視点に立った表現でチラシ作りをしているのかという問い掛けでした。どんなに良い企画であっても対象者にそれが伝わらなければ、人を集めることは難しいものです。

「講座の定員割れは、税金のムダ使い」「手にとってもらえないチラシは、資源のムダ使い」というのがエセナおおたでの講座に対する考え方。たくさんの人に参加したいと思ってもらえる企画とそれをどうやって伝えるかということを研究し、定員オーバーの講座を企画・運営されています。

講師：牟田静香氏

エセナおおた（大田区）の指定管理者「NPO 法人男女共同参画おおた」理事として活動し、2007 年は、日本各地で行政や市民活動団体を対象に「人を集める」ことをテーマに 100 回以上もの講座を行う。

◆講義編（12 月 15 日　午後１：00～４：30　市民活動センター　参加：１９名）

実際に配布したチラシを題材に、その良い点や悪い点を具体的に見ながらそのポイントを確認しました。同じ企画内容でも「伝え方」で「伝わり方」が相当に異なることが分かります。

エセナおおたでは、初めて講座に参加した人が参加機会を増やし、次のステップでは講座の企画者として参画しています。新規顧客開発をし、リピーターを増やす。そして活動のファンになってもらう。企業が行なうマーケティングの視点は、市民活動でもまったく同じことです。

◆実習編（12 月 16 日　午前 10：00～午後４：30　駿大ふれあいハウス　参加：９名）

Word を使いテキストを見ながら、実際にチラシを作りました。テキストは牟田さんのオリジナルで、かゆいところに手が届く、たいへんわかりやすいものでした。

標準機能を使いながらもアイデアー つで、その表現方法が格段に変わることを実習しました。レイアウト上の注意点、伝えたい部分の強調方法、表や図、写真の効果的な使い方などなど。

みなさん普段使っている Word でこんなこともできるのかと、まさに目からウロコの充実した時間となりました。

少しのアドバイスで…パソコンらくらく活用術を手に入れよう！・・・情報発信お助け隊

市民活動でもパソコンは必須の道具になりました。「思わず手に取るチラシの作り方」の講座では Word の標準機能を活用することで、今までとは見違える出来栄えで効果的なチラシづくりを実習しました。活用法を知っている人のアドバイスはたいへん参考になります。

市民活動センターでは情報発信お助け隊（情報発信を助けたい）の活動を通して、ホームページやブログ、Word、Excel などのパソコンソフト、デジカメの活用術などなどアドバイスをしています。お気軽におたずねください。マニュアルとのにらめっこは肩がこりますよ。

◆毎週火曜日　午後３：00～５：00

前日の午前中までにアドバイス内容を含めご予約ください。

予約は、センター窓口へ直接、あるいは電話、メールにてお願いいたします。

※いままでのお助け情報は、市民活動センターホームページをご覧ください

福祉系の市民団体による交流会 が開催されました　（9/20,11/30）

６月23日に市民活動センターで開催された団体交流会の最後に、「関連する分野の団体間での交流を深める場の必要があるのではないか」という提案がありました。その提案を受け、福祉関連等で活動している「いきいきらいふ・ネット」「介護保険わかろう会」「託老室ひだまり」「たすけあい語来里」による呼び掛けに、福祉系関係団体が集まり、活動センターで交流会が開催されることになりました。新たな連携の始まりです。

まちサポネット元気も、センターの交流活動の一環として、日程調整や広報等に協力しています。

◆第1回　福祉系活動団体交流会 …… 9/20（木）　午後 7:00～8:40

福祉活動に関わる団体同士が、意見交換できる場を持つことにより、問題意識の共有化を図り、かつ、新たなネットワークの可能性を探れるのかをテーマに、第１回目の交流会が開催されました。

団体の名前は知っていてもその活動の内容までは知らないということが多いようでした。まずは、初めての集まりでもあることから、各団体の活動紹介と、それぞれに抱えている運営上の悩みや課題などを出し合いました。

参加者：
１０団体
（２６名）

=== 提案された課題 ===

- 会員が少ない
- 事務所•活動拠点がない
- 運営する資金がない
- 講座を企画しても参加者が集まらない
- チラシを配布しても参加者が集まらない
- 効果的な広報の仕方がわからない
- 行政からの要請に対応しきれない
- モチベーションのもっていきかたが不明
- 長期活動に伴い課題満載で気力が減退気味
- 知名度が低くためイベントへ参加しづらい
- 団体同士協働したイベントができない
- ネットワークの拡大方法が不明
- 行事の情報が伝わっていない
- 後継者探しに苦労している

◆第2回　福祉系活動団体交流会 …… 11/30（金）　午後 7:00～8:40

前回出された課題についてそれぞれの団体でどのように対応しているのかなどを話し合いました。お互いの活動の様子を知ることから相互交流を深かめ、信頼関係を生みだし、顔の見える関係づくりにつながることが期待されます。

交流会で出された課題への対処事例は、右記のとおりでしたが、話し合いの中で新たな問題点も見出され、福祉活動に対する問題や課題の多さを参加者一同改めて痛感しあうことにもなりました。今後も交流会を開催し、共有する課題についての話し合いを続けていくことになっています。

参加者：
１３団体
（２５名）

=== 課題への対処事例 ===

- バザーの収益により運営資金を捻出
- 市報の活用はＰＲに効果的
- まちサポのメーリングリストもPR効果が大きい
- 他団体の活動を見るのもよい
- 各種講座への参加による情報収集
- 活動範囲は狭い地域だけでなく入間市全体に拡げて行くことが必要

=== 新たに提案された課題 ===

- 行政の要請が介護保険では対応できない内容まで広がっている
- 介護保険は法改定の度にわかりにくくなる
- 福祉行政の変化に活動が翻弄されている
- ＮＰＯの運営に悩んでいる

活動団体紹介

このコーナーでは、市内で活動する団体の皆さんに登場いただき、活動内容やイベント情報の提供をしています。

入間市運転ボランティア「車友」

代表：峰岸壮吉　TEL/FAX 04-2964-9016
〒358-0003　入間市豊岡5-3-35-604

入間市運転ボランティア「車友」は、入間市社会福祉協議会の支援を得て、市内の送迎ニーズに応えるため平成９年６月８日発足しました。ご存知のように、移送サービスのニーズは、県内は勿論、全国的にも高まり、主に通院移送サービスにＮＰＯ法人やボランティア団体が活動しております。

現在会員数 26 名で送迎回数は、年間約 1,100～1,600 回（送迎で２ｶｳﾝﾄ）になります。主な送迎先は市内及びその周辺の病院で、防衛医大病院、豊岡第一病院、石心会などです。市内９地区間は家族構成などにより送迎ニーズに大きな差があります。

「車友」送迎活動で最も留意していることは安全・安心の確保です。具体的には、次のような活動基準を決めております。

- ○送迎時間：８時～17 時、安全運転のため夜間送迎は行わない。
- ○往復送迎距離：入間市周辺で往復 30Km 以内。
- ○活動範囲：乗車→移動→降車まで。病院内への介助移動などは行わない。
- ○初回送迎前：関係者打合せ（社会福祉協議会受付窓口であるボランティアセンター・地区役員・送迎者・利用者）で送迎内容（送迎先・出発時間・迎え場所など）の確認を行う。
- ○各種会合：月例地区役員会、各種懇談会（利用者や会員）などを定期的（年 1～2 回）に開催し、意思疎通を図る。
- ○保険：「車友」会員全員は、ボランティア保険に加入し、利用者は送迎サービス補償保険（送迎時に 20 円/回）に加入。
- ○運転講習：実技は社会福祉協議会の福祉車両による操作実習と自動車教習所で実技講習。交通法規は外部講師に依頼。

移送サービス活動を通じて感じることは、身体の不自由な方が多くのハンデを背負って生活しており、自助努力も必要ですが、生活全般を地域が協力して手を差し伸べる時が来ているのではないかと思っています。

交通法規講習会
狭山警察官に講師を依頼

社会福祉協議会
福祉車両「ルシーダ」

たすけあい語来里

代表：深田恒夫　TEL/FAX 04-2932-3049
〒358-0053　入間市仏子 1035-15-6-402
E-mail：t-fukada@abeam.ocn.ne.jp

家事援助～困ったときは「ハイかたくり」

「たすけあい語来里（かたくり）」は、いま特に家事援助の充実に力を入れています。

事の起こりは春の総会、７９歳会員の発言です。

「私、時々目が回るんです。この前銀行へ行こうとした時もくらくらと来て、とうとう急の用事がはたせませんでした。会に頼めればとても助かるんですが。」

別の７１歳女性会員「うちに蜂が巣を作っちゃって怖かったの。市役所の紹介で業者に頼んだら７千円かかっちゃった。痛かったわ。」　これを聞いた別の元気の良い会員「蜂の巣退治なら、私得意だったのに」・・・

といういきさつを経て、業者やヘルパーさんに頼むほどではない困りごとを、引き受ける体勢を作りました。

- ・ごみ出し
- ・日用品の買物
- ・病院の付添
- ・郵便局･銀行等でのお金の取扱い

等の 10 項目を対象に、それぞれ「私、出来ます」という会員が待機して、事務局に電話があれば、すぐ適任者が伺うようにしました。

料金は、1 時間上限 500 円から実情に応じて無料まで。草むしりや床のワックスがけなどびっしり作業した場合は上限の 1 時間 500 円。「最近パソコンを手に入れたが､終了の仕方を忘れてしまった。」という 92 歳男性会員からは１時間 200 円頂きました。

たすけあい語来里の名にそむかないたすけあい活動を目指しています。

お掃除に行きました

昼食宅配～ハイこんにちはお弁当ですよ

金曜日午前､西武公民館の調理室をお借りして､お弁当を作って届けています。「美味しい」と評判です。

創立 11 年、着実に会員数を伸ばし､事業内容も充実しているたすけあい語来里(かたくり)です。

お弁当作っています

センターからのお知らせ

◆ 2/6　福祉系活動団体交流会

日　時：平成２０年２月６日（水）　午後７：00～8：30
会　場：市民活動センター　活動室１（３階）
参加費：300 円
申　込：２月１日（金）までに、市民活動センターへ
　　電話か Fax 又は E-mail で。

◆ 2/17　団体の底力アップ実践講座

元気だった活動が停滞気味。会員どうしのコミュニケーション不足を解消し、実働会員８割の組織へ変身するコツをワークショップでモノにします。　奮ってご参加ください。

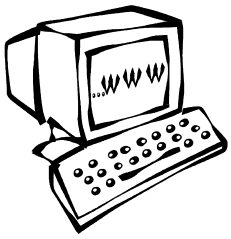
テーマ：逆説２・８の法則
日　時：平成 20 年２月１７日（日）　午後２：００～5：００
会　場：市民活動センター　活動室１（３階）
講　師：庄嶋孝広氏（市民社会パートナーズ代表）
対　象：市内の活動団体
定　員：50 人
参加費：200 円
申　込：２月１５日（金）までに、市民活動センターへ電話か Fax 又は E-mail で。

◆ ３月下旬　市民活動センター登録団体交流会

登録団体相互の交流、団塊世代の情報交流、市からのお知らせなどの内容で、3/29（土）を予定しています。詳細は別途連絡いたします。

■「団塊世代と地域との情報交流プロジェクト」スタッフ募集

まちサポネット元気では市からの業務委託を受けて、団塊世代と地域との情報交流を促進するホームページサイトを立ち上げる事業を開始しました。この新規プロジェクトに協力して頂ける検討スタッフを市民から広く募集します。



対　象：入間市在住もしくは勤務の方
期　間：2008 年１月～3 月末まで（3 ヶ月間）
条　件：中高年のライフスタイルや市民活動に興味のある方
　　パソコンやインターネットの経験不問）
進め方：月に２回程度の打合せを行い、役割分担を決め、分担作業を予定
報　酬：薄謝予定
問合せ：まちサポネット元気事務局にお気軽にお問合せ下さい

情報をゲットしてください

市民活動センターのホームページには、毎月のイベントや講習会の予定や、実施された行事の模様など市民活動に関する様々な情報が掲載されています。「入間市民活動センター」で検索し、情報入手にご利用下さい。

入間市市民活動センター　検索

http://machisapo.web.infoseek.co.jp/
編集・発行／まちづくりサポートネット元気な入間（市民活動センター内）